

座って木の魅力感じて

ペンチやモンキーレンチ、スパナなどの木工道具の形をした大型の木製ベンチが14日、幸田町の中央公民館と町立図書館でお披露目された。

ベンチは、愛知教育大（刈谷市）の樋口一成教授がデザインしたもので、県内産のスギやヒノキなどを使い、木の香りや手触りが楽しめる。今年9～11月には、岡崎市のおかざき世界子ども美術博物館で開催された「木のおもちゃ展」で展示した。

多くの人に利用してもらいたいと、樋口教授が幸田町にベンチ3台を寄贈。町は中央公民館に1台、町立図書館に2台を設置した。

この日、同公民館で寄贈式があり、成瀬敦

幸田愛教大教授がベンチ寄贈

町長から感謝状を受け取った樋口教授は「幸田町の皆さんに座っていただくことで、木の素材の良さを知ってもらい、自然や環境についても考えるきっかけにつながれば」と話した。（服部壮馬）



ベンチを寄贈した樋口教授も
＝幸田町菱池の中央公民館で